

研究の取り組み

九州沖縄農研における TMR の取り組み

九州沖縄農業研究センターは第2期中期計画（平成17～22年度）で、イネ発酵 TMR 研究チームをつくり発酵 TMR の研究に取り組んできました。この研究チームは発酵 TMR 利用技術の開発と普及をめざし、粗飼料として自給率向上に役立つ飼料イネの茎葉利用を検討しました。また、食品副産物の焼酎粕濃縮液を原料として利用するため、その栄養価や牛のえさにした場合の牛乳や牛肉の品質も検討してきました。その結果、飼料イネや焼酎粕濃縮液を用い、安定的に貯蔵できる発酵 TMR の調整方法や利用技術などを第2期の取り組みで開発できました。

平成23年度からの第3期中期計画では農研機構の TMR 研究分野の一員として焼酎粕以外の食品副産物、さらに、飼料イネの茎葉だけでなく“子実（飼料米）”

も利用する発酵 TMR 給与技術の開発に取り組んでいます。

現在、飼料イネを大規模に栽培する生産者、焼酎メーカー、焼酎粕処理プラントを建設するメーカー、企業体畜産経営が運営する TMR センター、そして大学など関係機関と協力しながら現地実証試験を行い、さまざまな問題を解決しながら実用化と普及を目指しています。

これまでに得られた研究成果はマニュアルとしてとりまとめ、公表しています。以下の URL にもありますのでご利用下さい。

http://www.naro.affrc.go.jp/karc/contents/files/rice_slug_mix.pdf

【畜産草地研究領域 服部 育男】

